

浄土真宗本弘寺婦人会だより

平成18年9月 第22号

製造業を営む友人が久しぶりに訪ねてこられた。元気がないのでどうしましたと尋ねると、事業が失敗し、5年前建てた自慢の自宅まで人手に渡り、今は家族3人でアパート暮らしとのこと。「それにしても世の中冷たいですね・・・」と言われる。「銀行は事業が順調なときは“借りてくれ、借りてくれ”と言うので、付き合いも大切と思い必要もないのに借りたりして銀行に貢献もしてきたのに、本当に困って必要なときは体よく断られて貸してはくれない。友人が困っているときは催促無しのあるとき払いで良いよと援助をしたこともあるのに、私が困ったときはみんな自分のところも火の車でとても無理だと言って誰も助けてはくれない。」と、ため息ながら話され、「もう疲れた、死にたい」と言われる。私は沈み込んでいた彼にはきついかとも思いましたが、君は今、世間が冷たいので事業が失敗し、疲れ果て死にたいほど苦しんでいると言われるが、その苦しみの原因は世間が冷たいのではなく、君の心がその苦しみを生んでいるのだと思いますよ。事業が倒産し、自慢の家まで失い、死にたくなるのもよく分かりますが、釈尊は“人生は苦なり”と申されました。人間として生まれて、悩み苦しみのない人は一人もいないのです。人間は何か成功すれば自惚れ、失敗すれば途端に落ち込んでしまう。損得ばかりにとらわれ、損をすればなんとしても取り返そうともがき、得をすれば自分の手柄と喜んでいる。他人に褒められれば有頂天になり、他人にけなされれば自信を失ってしまう。こうした姿は本当の自分に目覚めないからでしょう。本当の自分に目覚めないと、何か不利なことが起きると祈禱や占いに頼り、いよいよ迷いの底に沈んでいくようです。

人間は私たちが思っているよりももっともっと深く尊い存在なのです。不可称・不可説・不可思議としか言いようのない中に、仏様から大きな大きな願いをかけられ、沢山の人の期待の中に賜った尊い存在なのです。仏様の願いとはどんな逆境にあらうと強く、明るく、深く、充実した人生を歩んで欲しいとの願いです。その仏様の願いは悩み苦しみの姿となって内から私の深い心に呼びかけられているのです。ナムアミダブツの声となって外から私の深い心に呼びかけ通しなのです。何かに悩み苦しむこと、何かに悩み苦しんでいる自己そのものを悩むこととは違うのです。悩み苦しんでいる自己、すなわち何故そんなことで私は悩むのかと自己が問題になるとき、仏様の呼びかけに気がつかされるのでしょうか。仏様の呼びかけに目を覚ましたとき初めて、強く、明るく、深く生きる力が湧いてくるのです。死にたいと悲観的にならずに、生きる道はすでに開かれています。希望を持って1日1日をしっかりと歩んでくださいと励まさせていただきました。合掌

住職 高島利明

本山報恩講と第1回婦人会関東大会へのお誘い

日頃お会いすることのない板東曲によります法要、また御法主台下、大裏方様のお言葉をいただく得難きご縁に合わせていただきたいと思います。心あたたまる1日を皆様と共にいかがでしょうか？男性の方のご参加もお待ちしております。10月8日までに費用を添えてお申し込みください。

日時：平成18年11月28日(火)
午前7時30分本弘寺集合(観光バスにて参ります。)
場所：本山東本願寺
費用：10,000円(会費、昼食、夕食代として)

読者の広場

「三つ子の魂に思う」

米沢 節子

四季の移り変わりを楽しみながら歩いていた相模原北公園でのことです。去る4月17日は、銀杏並木が見下ろせる休憩所のベンチに腰をかけておりましたら、目の前の石段を下りかけている親子が目にとまりました。男の子は4才か5才くらいと思われ、お母様は身重のようでした。一段ずつ踏みしめながら降りていくうち何段目だったでしょうか男の子の足がピタリと止まり、胸の前で両手を合わせて正面に向かって深々と頭を下げたのです。「はっ」と思っで見つめておきますと、隣にいたお母様も驚いた様子で「まあこの子は」と声を出されました。子供を愛おしむ優しい母の目を感じました。そのまま歩き出した二人ですが、石段が終わりに近づいた時もう一度手を合わせて頭を下げました。

子供心に何を思うのか胸の内は計り知ることは出来ませんが、子供を取り巻く日頃の家庭環境によるものではないかと思えます。親が子を愛おしみ、子供は親を尊敬できることは幸せです。色々な思いが頭の中を駆け巡る中、二人が手を繋ぎゆっくりと遠ざかって行く姿が見えました。何事もなかったかのように・・・自然に手を合わせられる心は尊いものですね。お預かりした命を大切にこれからも仏法聴聞させていただきたいと思えます。

「米沢さんの寄稿に寄せて」

栗田 満江

私たちは阿弥陀様の本願に願われて生かされております。また、阿弥陀様は仏壇の中におられるのではなく、常に私やあなたのおそばから片時も離れず一緒に歩んでくださっております。きっとこの坊ちゃんの家族の方々は常に手を合わす生活をなさっておられるのでしょうか。階段を下りるときに声なき声が聞こえたのではないのでしょうか。その声なき声に坊ちゃんはお挨拶されたのです。米沢さんはたくさん仏法聴聞されているお陰様でこんな素晴らしい光景に出会いをいただけたのです。ありがとうございました。合掌



今後のお知らせと予定

日付	本弘寺	婦人会
11月21日	報恩講法要	
11月28日		婦人会関東大会
19年1月1日	修正会(初参り)	
1月8日		新年会
3月18日~24日	春彼岸	お彼岸参拝者へのお茶接待